

！特集

# 防災

大雨被害を防ぐため、必ず事前の確認を

問 危機管理課 26-2111 (内線353、354)

！毎年、大雨の被害が発生しています

昨年8月の大雨や一昨年の7月豪雨など、毎年のように市内で大雨による被害が発生しています。昨年の8月の大雨では、土砂災害などによる住宅の「一部損壊」が3件、増水による「床上浸水」が5件、「床下浸水」が20件発生するなど、私たちの住まいにも多くの被害が発生しました。



▶昨年8月の大雨時の岩村町(下)、上矢作町(下)の被害

大雨が降れば、急な斜面では土砂崩れによる災害が、河川では増水による浸水被害が発生する可能性があります。近くにいる場合は、命に危険が及ぶことがあります。このような危険を事前に認識し、有事の際に早めの避難ができるように、土砂災害ハザードマップ(土砂災害警戒区域マップ)を配布しています。ハザードマップには色が付いています。自宅など普段生活する場所に色(黄色、赤色、青色、青色など)が付いているかを確認してみてください。色が付いている場所に住んでいる方は、豪雨などで身に危険が及ぶと感じた場合、直ちに避難してください。ハザードマップは、市ウェブサイトでも確認できます。

！避難情報の確認を

昨年、法律の改正により、避難情報に関するガイドラインが変更されました。警戒レベル5「緊急安全確保」は、発令された段階では既に安全な避難ができず、命が危険な状況です。警戒レベル4「避難指示」が発令されたら、必ず全員避難してください。

警戒レベル	避難情報	とるべき行動	気象庁が発表する防災気象情報
5	緊急安全確保	命が危険な状態！直ちに安全確保を！	氾濫発生情報 大雨特別警報

<< 警戒レベル4までに必ず避難 >>

4	避難指示	危険な場所から <b>全員避難</b> する	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報
3	高齢者等避難	高齢者や障がいのある方などは危険な場所から避難する	氾濫警戒情報 洪水警報 大雨警報
2	大雨注意報 洪水注意報	避難行動を確認する	氾濫注意情報
1	早期注意情報	災害への心構えを高める	-

※警戒レベル1・2の避難情報は気象庁が発表し、警戒レベル3～5の避難情報は市が発表します

防災情報を受け取る準備を

市では、気象・避難情報などを、主に防災行政無線や音声告知器、市ウェブサイトや市メール配信サービスを使ってお知らせします。事前に情報を得る手段を確保しておいてください。

市民メール



え〜なび



iPhone Android

災害情報を知る



県ウェブサイト  
浸水想定区域



県ウェブサイト  
土砂災害情報



県ウェブサイト  
川の水位情報



Yahoo!Japan  
防災速報アプリ



中部電力停電お  
知らせサービス



市ウェブサイト  
避難所一覧

命が失われる前に避難を

行政が、一人一人の状況に応じた避難情報を出すことはできません。災害の脅威が間近に迫っているとき、行政が一人一人を助けに行くこともできません。

避難とは、自分で災害を避けて安全な場所へ立ち退くことです。一時的に安全な場所に移動するだけでも避難といえます。

ハザードマップで色が付いている所にいる場合は、危険な場所から安全な場所(色が付いていない安全な場所や知人の家、指定避難場所など)に移動し、危険が過ぎるまで身の安全を確保してください。事前に避難先を確認しておくことで、有事の際にスムーズな避難が可能になります。



【避難場所の例】※全て安全な場所にあること  
 ・親戚や友人宅  
 ・指定緊急避難場所(小中学校や地域の集会所など)  
 ・ホテルや旅館など

土砂災害ハザードマップ



土砂災害ハザードマップは、危険箇所の把握とともに、避難場所や避難経路を確認することで、災害時でも迅速かつ、安全に行動するための地図です。赤色や黄色の区域に住んでいる方は、大雨のときは早めの避難をお願いします。



市公式ウェブサイト  
防災マップ

【ハザードマップの色の見方】

赤色

土石流や急傾斜地での土砂崩れなど、土砂災害の発生する危険性が高い場所。発生するとあっという間に土砂が流れてくるため、とても危険です。



青色

近くを流れる河川が溢れる可能性があり、色が濃いほど浸水する深さが深い場所です。避難が遅れた場合、家屋ごと流されてしまう危険もあります。



水色